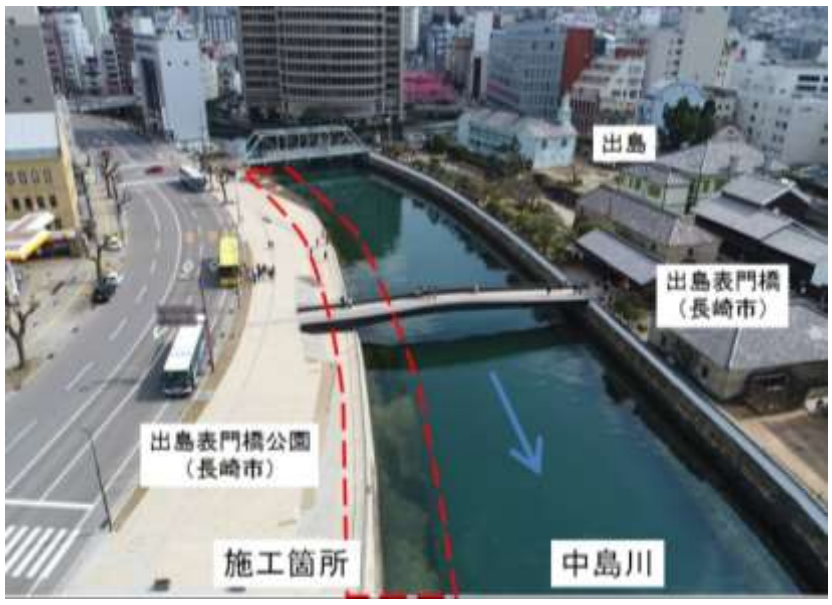
出島付近の歴史的石積護岸の整備①

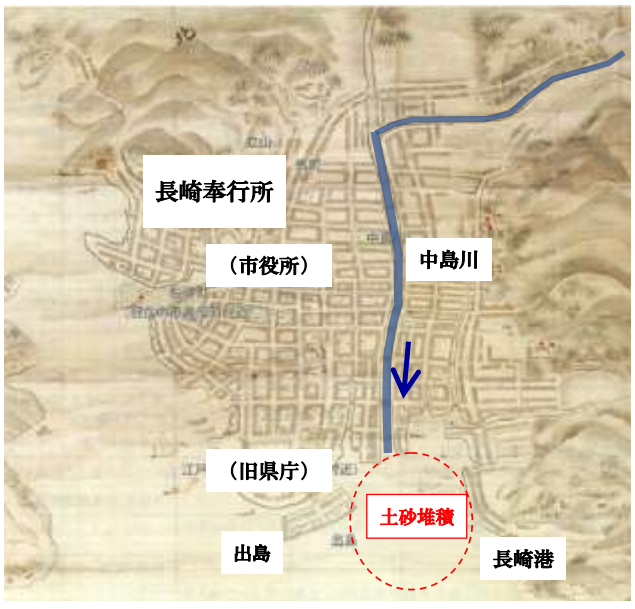
中島川河口付近、出島付近の河川改修を行うにあたって、当箇所には、明治時代の長崎県最大の土木工事のひとつである、第１次長崎港改修工事である中島川変流部護岸が現存していました。
そのため、高い歴史的・文化的価値を損なわないようにしつつ、現在の構造等の基準を満たすよう、現代の土木工法で施工がなされました。

中島川の変流工事

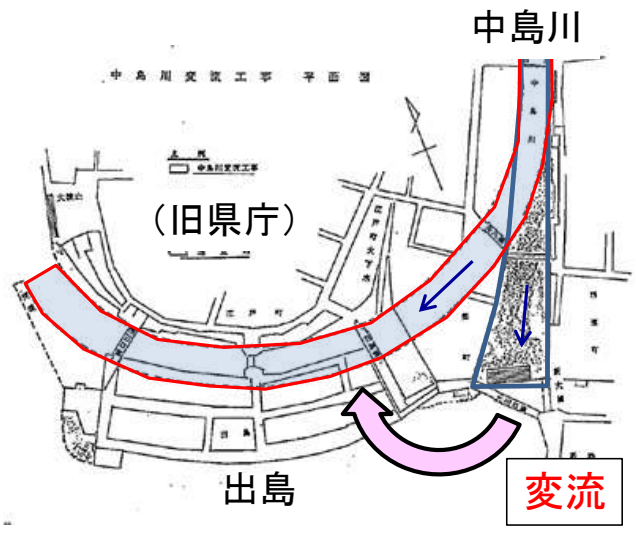
幕末から明治初期の動乱の中で長崎港の管理が十分にできず、中島川から流込んだ土砂で河口部が堆積し、その結果、外国船が長崎港へ接近できなくなったため、長崎県にて調査、設計を経て、明治２０年（1887 年）から明治２２年（1889 年）にかけて、中島川の変流工事が行われました。



（工事箇所全景）



（変流工事前の長崎港）



（中島川変流工事模式図）

中島川変流工事により、変流前の中島川河口部は直進して、長崎港へ流入していましたが、これを出島の正面（旧県庁側）に屈曲させて、河川の付替えと拡幅を行いました。中島川変流工事は、第１次長崎港改修工事のひとつとして、行われたもので、これは、明治時代における長崎県最大の土木工事でした。

現存する石積護岸

中島川変流工事により整備された護岸は一部現存しており、これは第１次長崎港改修工事の唯一の痕跡として現代に形を残している非常に貴重な護岸であり、その歴史的・文化的価値は高いものと判断されました。
そのため、中島川河川改修事業により、この護岸部についても改修工事を行うにあたり、その価値の保全に配慮がなされました。
改修前の現況護岸の根石を含む下部は、中島川変流工事で整備した石積のままでしたが、一方、上部は昭和時代に継足された石積となっていました。さらに当護岸は、はらみ出しや石の抜けが多数あり、そのままでは崩壊のおそれがあるため、改修の必要がありました。
護岸の改修にあたっては、現在運用されている構造基準等を満たすため、現代の土木工事を用いながらも、明治時代の石垣の自然な風合いをもつ石積み護岸となるよう、工夫を重ねて工事が行われました。

（改修前の石積護岸状況）